

みんなの環境

第29号 2011年6月7日

編集/発行 あつぎ環境市民の会

http://www.geocities.jp/atsugi_kankyo/

みんなの環境展2011

水の現状と将来を考える、水と環境がメインテーマ

6月25日(土)・26日(日) 厚木市文化会館



富山和子氏

第7回「みんなの環境展」2011(実行委員長 井上允)は、～水と環境～をメインテーマとし、厚木市との協働提案事業で開催します。

水の惑星地球には、13億8600km³近くの水があるといわれますが、そのほとんどが海水です。淡水は2.5%。しかも淡水の中の約7割は氷河で固定され、私たちが利用できる水は0.01%に過ぎないという事です。例えていいますと、海水が風呂桶一杯だとすると、利用できる淡水は僅かスプーン1杯です。

この僅かな水に地球人口68億の人々がしがみついている事になります。

26日上映のアメリカ映画「ブルー・ゴールド～狙われた水の真実」は、本来ただのはずの自然の恵みが、ちかごろ市場経済の中に商品として放り出されてしまったため、命をつなぐためどんな対価でも支払おうとする住民と、虎視眈々と投資対象として多国籍企業が狙っているという内容のドキュメンタリー映画です。

いずれ日本にも起きる可能性があるのではないかという危機感を持つ力、また、私たち日本人が無意識のうちに、世界中の人々に迷惑をかけてしまっている事実(バーチャル・ウォーター)など、みんなで学ぶ学習の場に出来れば幸いです。

講演「水と緑の国、日本～いま、子どもたちに伝えたいこと」は、40年も前から山紫水明な日本の里山の役割を多くの人々に伝え、日本の自然を守ろうと、真摯に立ち向かわれてこられました富山和子氏(日本の環境問題評論家、立正大学名誉教授)にお願いする事が出来ました。私たちにとりまして、忘れられないひと時になる事と思います。

25・26日4階集会室展示場におきましては小学校、大学、行政、市民と協働で環境パネルの展示、パネルディスカッションを通して日頃の活動を発表、情報の共有化を図ります。ぜひ多くみなさま方がこの環境展にお越しくださいますよう、心よりお待ちしております。

(狩野光子)

河川水から水道水に変わる流れ知る

伊勢原浄水場を見学



レクチャールームで説明を聴く



ろ過池では砂、砂利を通り水道水となる

5月9日、神奈川県内広域水道企業団・伊勢原浄水場へ見学に行った。参加者は14名で、皆以前から浄水場に関心を持っていたため、今回の見学が実現した。

最初に簡単な説明を受け、浄水場施設の流れを一通り知った。その後、実際に施設を見学した。最初に河川水をくみ上げる着水井を見たが生憎屋根があり内部を見ることができなかった。セキュリティ対策のため仕方ないが、ちょっと残念だ。次に凝集剤であるポリ塩化アルミニウムを添加し水中の汚れを取りやすくするフロック形成池を見て、攪拌の速さを段々遅くし浮遊物を大きくするなどのいろんな工夫をしていることにビックリした。その次に見たのは、フロック形成池でできた浮遊物を傾斜板に通して底に貯める沈殿池である。

底から5mあると言われたが、傾斜板を通った後の池は底にある沈殿物の掃除用ベルトコンベヤーがくっきりと見えて青く見えたため、まるで幻想的であった。そして、この沈殿池の上澄みを次の施設へと流していくが、その先は一度見えなくなる。この後は急速ろ過池で砂・砂利を使用して水をろ過し、地下にある調製池へと流れ、家庭へと運ばれている。

最後に、排水処理棟を見学させてもらった。中は入れないので外から見たが、沈殿池で出た汚泥を脱水・乾燥させて畑などの肥料になる無臭の土にする。

見学していく中で驚くべきことがあった。それは水のリサイクルである。池の掃除で出た洗浄水や排水処理で出た水を着水井へ戻して最初から処理していく。これは水を無駄にしない・大切にするという精神である。

ここの原水は酒匂川下流の小田原市飯泉で取水、22kmの導水管とトンネルによって着水井までくる。現在、約10万t/日処理している。見学して、参加者からは、水道の大切さ・河川水から水道水に変わる流れを知った。水道料金が高い理由が分かったなどの声が聞こえた。私は、もう一度見たくなくなったし、他の浄水場を見たいと思った。また、大学で学んできた事を実際に見られて良かった。

いろんな苦勞を見たので、私たちは洗い物をしない、ゴミ等を捨てないなど、上流で汚染をしない努力が必要ではないかと考えさせられた。
(松下泰行)

この会報にみなさんの環境への思いや情報を載せましょう。原稿は随時受け付けています

～ 私たちの活動～

はるうらら、里山のんびり散歩



魚を入れた籠を持つ観音様

4月17日。昨年までは上荻野田尻から愛川町田代海底に続く道を歩いたのですが、今年は川の勉強もかねて相模川のふち、上依知・猿ヶ島の河原からを中心に見て歩きました。参加者は4名と少なかったのですが、幸い好天に恵まれて良い気分で、植物や野鳥、河原の石を見たり、この場所の未来……どんな管理がいいのか考えたり、帰りには文化財にも触れたり、楽しく有意義に一日過ごすことができました。

河原はいろいろな人がいろいろな楽しみ方ができるすばらしい空間です。しかし、このような環境にしか生育しない、カワラヨモギのような希少な植物もあります。ここでは数株しか見ることはできませんでした。昔はカワラノギクとかもつといろいろな種類が生育していたそうです。川を横断して磯部頭首工をいう、大きな農業用水取水施設があります。三種類ほどの形を変えた魚道が作られていて、アユなどの遡上時期にはまた来てみたいと思いました。弁当を食べながら、河原の石を見ました。黒いもの白いものえんじ色のもの、

ごま塩をかけたようなもの等々、どこから流れてきたのか、どんな地史の物語を秘めているのか、壮大なそのことに思いを馳せました。

帰路、依知の台地に上がり曹洞宗長福寺にお参りしました。入口に大きな不動尊の道標があり、相模川を船で渡り、江戸と大山を結ぶ昔の街道筋にあたるのが分かります。山門の脇に立つ曲線美の美しい観音様が手に持っているのは魚を入れた籠で、この地域の人々が相模川を大切に川を幸と共に生きてきたことが想像されました。

見聞きした鳥：カワウ、カルガモ、セッカ、ハシボソガラス トビ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、イソシギ、ウグイス、ガビチョウ。

観察できた植物：アケビ(花)、イタドリ、イボタ、エノキ、オニグルミ(花)、カラスノエンドウ(花)、カワラヨモギ、クズ、サルトリイバラ、シナダレスズメガヤ、ショカツサイ(花)、スズメノエンドウ(花)、セイヨウアブラナ(花)、セイヨウカラシナ(花)、セリバヒエンソウ(花)、テリハノイバラ、ノイバラ、ヒロハノカワラサイコ、ヤダケ、ヨシ、ヨモギ、ヤナギ ex(花)。

(青砥航次、植物記録：長岡侑)

～ 私たちの活動～

荻野運動公園散策路・野鳥観察会

野鳥観察は、五月晴れに恵まれ、淡い朱赤色のヤマツツジの花が散見される新緑の散策路の中で行われました。散策路の尾根路でオオタカの鳴声をまじかに聴きました。銅座入口の畑の隅の2本のオオテマリの木は白い大柄の丸い花に包まれていました。(櫻井武)

観察場所：荻野運動公園散策路

日時：5月8日(日) 8:30～12:00 参加者：6人 案内：櫻井武

観察された野鳥：散策路第三展望台入口～尾根：メジロ、ヤマガラ、キビタキ(s)、オオタカ(s)、サシバ、ガビチョウ、ウグイス。～散策路尾根：ヒヨドリ、サンショウクイ。～銅座橋～運動公園：オナガ、ハシボソガラス、カイツブリ、カルガモ、ハクセキレイ、ムクドリ、イソシギ。

13 階病室で感じたこと

高橋弘毅

空調の整った建物 13 階に 11 日間入院生活体験した。雨風など自然の刺激が無くなり、患者様扱いで、頭洗いもやって貰える等、甘え体質人達も多いようだ。生活に不便なことやめんどろなことは全てあなた任せで、社会や行政などに頼るのが当たり前になっているようだ。

7 月初めの朝 5 時頃、数日間観察したところ、窓際や非常階段の踊り場には、クモの巣や鳥の糞もなく、窓枠の庇にバードストライクによると思われる約 3 cm 長茶色斑の羽根が 2 枚ほど見受けられた。後日、窓ガラスに鳥の衝突を見たこともあった。

柱の上部 2ヶ所に 20 cm 径位のクモの巣があり、その下部には小さなクモ糞&ウンカの死骸が確認された。ここのクモは風に乗って上昇してきたと思われるが、餌もやっぱり風で来たウンカであろう。餌のない環境には虫も棲まないと実感した。

病室からの視界に田圃や梨・葡萄畑が 70 枚ほどあるが、朝 5 時～6 時半頃シロサギ、アオサギが 4 羽飛来し、降りる田圃は 6 枚に決まっている。5 羽目が飛来しても餌も漁らず 3～4 分でどこかに飛び去ってしまう。この田圃以外に降りないのは、農薬などで生きものが居ないからだと思った。5 羽目以降の飛び去りは、縄張りの関係か？先客優先権があるのか…？互いを尊重するのは見習う必要を感じた。都会の高層マンションの生活に慣れ、自然に触れる機会が少ない人は、自然環境（生物多様性）の恵みに支えられているのに、それを意識せずに生活をしているから五感が鈍くなっているように思う。

上質生活は、自分で考え行動する中にあるもので、顔の見えない各種ネットの情報に惑わされないように情緒成長が大切だな。入院生活の中で感じた。(H22. 10. 9)

生物季節を記録しよう 6 月の自然

今年は 5 月の内に二つも台風が近づいて、例年より早い梅雨入りとなり、季節の進行がおかしな感じです。アヤマやハナショウブも雨の中ではことさら風情があります。

山ではヤマボウシの白い花が目立ちます。私が厚木に移り住む前、ヤマボウシはブナ帯の植物という認識だったのですが、上荻野あたりの山には結構自生しているのに驚きました。

鳥の世界では、まだ小鳥たちの子育ては続いています。巣立ち直後の良く飛べないひな鳥を見た人が助けようと捕まえる事があります。教育訓練中なので手を出してはいけません。親はどこかで見守っているはずです。この季節、ゲンジボタルが光り出し、次いでヘイケボタルが光り始めます。ゲンジは大きく優雅に見え、ヘイケは小さくせわしく光ります。ということでゲンジの方に人気があるのですが、流れに棲むゲンジより谷戸田のような溜まり水に棲むヘイケの方が種(しゅ)としては危機にあります。6 月も終わりの頃はセミも聞こえるようになります。あなたの見た自然情報を教えてください。情報は F A X (046-222-2356) またはメール (kohji.aoto@nifty.com) で青砥航次へ。

みんなの環境 第 29 号 2011 年 6 月 7 日発行

編集・発行 あつぎ環境市民の会 代表 狩野光子 / 制作 長岡恂
電話/FAX 046-224-5010 e-mail: mitsuko-karino@ayu.ne.jp
事務局 〒243-0817 厚木市王子 2-14-3 山中延明 方
電話/FAX 046-224-9693 e-mail: ANA40480@nifty.com
郵便振替口座 00200-7-132779 (年会費 A 会員:2000 円 B 会員:1000 円)

(C) あつぎ環境市民の会 2011